



上/コワーキングスペース「Connet」で風船づくりをする地域の皆さん  
下/蛭子町地区の中川さん親子も風船作りのお手伝い



開通式のイベントを企画した「地域おこし協力隊」の一人、吉海さん



新しくなった木山橋の欄干には、ちよつとしたテール代わりになるスペースも



親子連れや家族全員でやって来た人もいます。

「まるでお祭りのようだね」「楽しいね」とあちこちから声が上がります。企画したのは「地域おこし協力隊」のメンバーです。「公共の記念式典を住民の方々と一緒に作り上げるって、すてきなことだと思えます。笑い合い、声掛け合い、夢を乗せた風船を皆さんで飾り付ける姿に胸がいっぱいになります」と同隊の吉海雄大さん。

膨らんだ風船は多くの人の手により木山橋の欄干に飾られました。中には小さな手から離れて、秋空の中に飛んで行ってしまったものもありました。「行つてらっしゃい」と

放たれた声にうながされるように誰もが顔を上げ、風船の行方を穏やかに見守つ

ていました。

さて、新しくなった木山橋の欄干には、20センチ幅ほどの小さなテール代わりになるスペースが設けられています。ここに肘をついて休んだり、軽食や飲み物などを味わえるよう配慮されています。

そして開通前のその日だけ、木山橋の道の真ん中に立ち止まることことができました。記念写真を撮ったり、おしゃべりに花を咲かせたりと楽しい時間が流れます。その笑顔あふれる様子を、空撮のドローンが見届けました。

## 町の楽園、秋津川河川公園

木山橋の北側のたもとに大きな石塔が立っています。「木山の六地藏」と呼ばれる町の文化財の一つで、室町期に建立されたと伝わります。石碑に使われている花崗岩は、町周辺では入手困難な材料



室町期に建立されたという木山橋のたもとにある「木山の六地藏」

で、畿内（関西・近畿）地方から運ばれた石が使われていると考えられています。

これには、秋津川の水運を利用して県内はおろか、遠く関西・近畿地方などとの、人や物資の動きが活発に行われていたことが推察されます。もしタイムスリップすることができれば、人々が行き交い活気あふれる船着場の景色をのぞいてみたいものです。

秋津川河川公園の川辺へと下りてみました。耳を澄ませば、チラチラと流れる川の瀬音が聞こえてきます。春ともなるとこの辺りはサクラの花が咲きほころびます。花が葉より先に芽生えるサクらは、他の木々より早く葉を落とします。秋は始まったばかりだといふのに、すつかりあらわになった枝ぶりに、脈々と命を重ねて来た証を思えます。そして、遠い春まで静かに力を蓄えていくのです。初夏にシヨウブの花、真夏の早朝のハスの神々しい姿と、こうして私たちの町に四季を映し心癒やす場所があることをうれしく思います。



四季折々に豊かな自然が楽しめる秋津川河川公園

## 商売繁盛と夫婦円満の「蛭子さん」

再び木山橋に戻り、横参道を北へ歩いてみました。蛭子町の名前の由来となる「蛭子さん」は、公民館「きやま座」の傍らに佇んでいます。建立時期は不明ですが、地域の商売の発達と共に広く信仰を集め、勧請されたと伝えられています。現在のご神像は夫婦神。商売繁盛、夫婦円満にあやかりたいものです。

江戸時代から続く伝統ある木山初市が、来年はここまでにぎやかに開催されることを願います。



公民館「きやま座」の傍らに佇む「蛭子さん」